

東京大学大学院教育学研究科案内

(2018)

この『案内』は、当研究科に入学して専門的な勉強と本格的な研究を行うことを希望している方のために、研究科全体の構成と各コースの特色や教育研究分野などを示してあります。さらに詳細な情報を知りたい場合には、各コース事務室にお尋ねください。

●もくじ

大学院の機構・大学院の構成	3
---------------	---

総合教育科学専攻

基礎教育学コース	4
比較教育社会学コース	5
生涯学習基盤経営コース	6
大学経営・政策コース	7
教育心理学コース	8
臨床心理学コース	9
身体教育学コース	10

学校教育高度化専攻

教職開発コース	11
教育内容開発コース	12
学校開発政策コース	13
学校教育高度化・効果検証センター	14
バリアフリー教育開発研究センター	14
発達保育実践政策学センター	14
教育学部附属中等教育学校	14
心理教育相談室	14

■大学院の機構

大学院教育学研究科（修士課程、博士課程）は、総合教育科学専攻と学校教育高度化専攻の2つの専攻より成り、総合教育科学専攻は7コースで組織され、学校教育高度化専攻は3コースで組織されています。

■大学院の構成

専攻	教育研究分野
●総合教育科学専攻	
基礎教育学コース	教育哲学、教育人間学、教育史、教育臨床学
比較教育社会学コース	教育社会学、高等教育論、比較教育システム論、比較教育学
生涯学習基盤経営コース	生涯学習論、社会教育学、図書館情報学
大学経営・政策コース	大学経営論、大学政策論、比較大学論
教育心理学コース	教授・学習心理学、発達心理学、教育認知科学、教育情報科学
臨床心理学コース	臨床心理システム論、臨床心理カリキュラム論、発達臨床心理学
身体教育学コース	身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学
●学校教育高度化専攻	
教職開発コース	授業研究、カリキュラム研究
教育内容開発コース	数学・科学教育、言語教育、人文社会教育、芸術教育、身体教育
学校開発政策コース	教育政策研究、学校教育経営

■大学院教育学研究科の特色

本研究科は、人間と教育のかかわり、社会における教育の構造と機能、心身の発達と教育などの分野において卓越した分析・研究を行う能力を形成するとともに、教育の実践に高度の専門的知見と能力をもって貢献する人材を養成することを目的としています。

2018（平成30）年度は135名（修士85名、博士50名）の大学院学生を新たに迎え、留学生も16名入学しました。他大学からの入学者も半数ほどを占めます。創設以来の修了者約2900名が全国の大学・研究所などで活躍中です。ゼミ、特殊研究、フィールド調査などの形態で活発な研究と指導が行われております。

総合教育科学専攻

基礎教育学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 たなか さとし 田中智志 (教育臨床学)

専門は、教育概念史と教育臨床学です。教育概念史は、教育の営みを粹づける基本的な概念を歴史的に把握する試みです。教育臨床学は、生きるとはどういうことかを問いつつ、よりよい教育の営みを模索する試みです。教育概念史としては、これまでに人間形成概念、社会性概念をとりあげてきました。現在は近代以前にさかのぼり、完全性概念に取り組んでいます。教育臨床学としては、関係性、倫理感覚、共存存在を中心にあれこれ模索しています。

■教授 こたましげ お 小玉重夫 (教育人間学)

教育における人間と政治、社会との関係を思想研究によって問い直すことを研究テーマとしています。特に、ふだん自明のものとしてうけいれられている「教育」や「学校」を、歴史的・構造的な視点から相対化し、そのうえで、教育改革の筋道を追究していくことが、当面の研究課題です。具体的には、教育の公共性に関する思想研究、公共性の担い手を育てるシティズンシップ（市民性）教育、政治的リテラシーの問題などに、関心をもっています。

■教授 やま な じゅん 山名 淳 (教育哲学)

専門は教育哲学・思想史研究です。人間が環境に働きかけ、そこに<文化>を生み出しつつ、その<文化>が人間に作用し返すような力動性を想像してみます。この力動性を主役として世界を眺めるとき、通常は人間を主役として理解される教育がいかに捉え直されるのか、ということに関心があります。Bildung概念とその翻訳問題、都市と学校のアーキテクチャ問題、「新教育」の理論と実践、想起教育学などを具体的な考察の領野としつつ、この課題に取り組んでいます。

■教授 こくに よしひろ 小国喜弘 (教育史)

学校教育に関する言説・制度・実践などを歴史的に対象化することを目的とし、日本教育史の研究に取り組んできました。特に1945年を画期とする戦前から戦後にかけての教育方法の特徴をナショナリズムとの関連に焦点をあてて読み解くことを課題としています。学校教育の変革期にある今、戦後の学校教育の理論的背景となってきた「戦後教育学」を批判的に検討し、新たな教育学の可能性を模索したいと考えています。

■准教授 かた やま かつ しげ 片山勝茂 (教育人間学)

対立する複数の価値観が並存しながらも、自由で平等な市民が協力して維持する、正義に適った安定した民主的社会はいかにして可能か。ジョン・ロールズが残したこの問いに教育学の立場からアプローチするべく、「教育と人間と社会のあり方」を考察しています。特に関心を持っている教育のフィールドは、多文化社会イギリスと日本におけるシティズンシップ（市民性）教育と道徳教育です。

【特色】

基礎教育学コースは、名前のとおり、教育研究の最も基礎的な部分を担当する専修／コースであり、広く「人文学的」と呼ばれるような方法で教育という対象にアプローチすることをねらいとしています。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
教育哲学演習Ⅰ	教授	山名 淳
教育思想演習	教授	小玉重夫
教育人間学基本演習	准教授	片山勝茂
日本教育史演習Ⅰ	教授	小国喜弘
教育臨床学基本演習	教授	田中智志
基礎教育学総合演習	教授	田中智志
	教授	小玉重夫
	教授	山名 淳
	教授	小国喜弘
	准教授	片山勝茂
教育哲学演習Ⅱ	教授	山名 淳
教育政治学演習	教授	小玉重夫
教育人間学特殊研究	准教授	片山勝茂
日本教育史演習Ⅱ	教授	小国喜弘
教育思想史特殊講義	非常勤講師	山内紀幸
教育臨床学演習	教授	田中智志
教育現象学特殊講義	非常勤講師	大塚 類
教育哲学論文指導	教授	山名 淳
教育思想論文指導	教授	小玉重夫
教育人間学論文指導	准教授	片山勝茂
日本教育史論文指導	教授	小国喜弘
教育臨床学論文指導	教授	田中智志

比較教育社会学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 恒吉僚子 (比較教育学)

子どものしつけや教育、社会化過程を、それを取り巻く社会・文化的コンテキストの中でとらえ、国際比較、異文化間比較を行っています。「多文化化」「グローバル化」等、マクロな社会や、国境を越えた動きと、教室内のミクロな日常性をつなぐ作業を、比較視点から模索することに関心があります。国際比較から見た日本の子どものしつけや教育の特徴等にも関心があります。

■教授 本田由紀 (教育社会学)

主に、家族と教育、教育と仕事、仕事と家族という、異なる社会領域間の関係について調査研究をしています。90年代以降の日本社会では、この3つの関係には矛盾が露わになっています。たとえば家庭教育に対する圧力や格差の高まり、「学校から職業への移行」の機能不全、仕事の不安定化による家族形成の困難化などです。それらをどう立て直していくか、行政や草の根的な運動がいかに関わってゆくべきかを考えています。

■教授 橋本鉱市 (高等教育論)

高等教育に関わる諸事象を、主に歴史社会的なアプローチによって研究しています。学問領域・内容の制度化プロセス、プロフェッションとしての大学教授職、学位制度・教育プログラム、高等教育の制度・組織的分化、専門職養成の政策過程など分析対象は多岐にわたりますが、激変する現代の高等教育をめぐる制度・組織・政策を、近代以降の大きな歴史的な流れの中で相対化する地道な作業が必要だと考えています。

■教授 中村高康 (比較教育システム論)

大学入試や高校生の進路選択など、「教育と選抜」に関わる諸現象の計量的・比較社会的検討が主要な研究テーマです。近年では関心を拡げて、社会階層と教育制度の関連、進路選択と地域性の問題、メリトクラシー（能力主義）に関する理論的考察なども手がけています。量的な研究方法を使うことが多いですが、最近では質的な方法もできるだけ取り入れた総合的なアプローチ（混合研究法）がとても重要だと感じています。

■准教授 仁平典宏 (教育社会学)

「教育的なもの」をその外部において捉えることを課題としています。例えば、社会保障制度は既存の給付型から教育・訓練型へと変化しています。「市民」概念も、教育を通じて「なる」ものへと転換しつつあります。「主体の絶えざるバージョンアップ」を要請する〈教育〉のコードが、隣接するシステムに忍び込み変質させていく——その有り様と帰結を社会的に追尾することで、近年の社会変化の諸相を解明していきたいと思えます。

■准教授 額賀美紗子 (比較教育学)

グローバル化の進展が家族、学校、子どものアイデンティティや能力形成に及ぼす影響に関心があります。国際移動する子どもに注目し、在米日本人家族や在日外国人家族のエスノグラフィー研究を行ってきました。学校の日常や家族の教育戦略の中でジェンダー、エスニシティ、階層、学力が交錯する過程を見ています。日米の学校調査を通じて多文化教育や市民性教育の国際比較も行っており、マイノリティを包摂する教育と社会のありかたを研究中です。

【特色】

比較教育社会学コースでは、社会学を中心に、歴史学、経済学、文化人類学などに基づいて、「社会現象、文化現象としての教育」を、国際比較や異文化理解を含めた多角的な視点から、総合的に考察できる学生の育成をめざしています。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
現代日本社会における教育・仕事・家族	教授	本田由紀
市民社会・国家・教育Ⅰ	准教授	仁平典宏
高等教育の社会学Ⅰ	教授	橋本鉱市
教育社会学の諸概念	教授	中村高康
教育社会学方法論研究	教授	三輪 哲
質的方法論研究Ⅰ	准教授	額賀美紗子
教育社会学の研究課題	教授	本田由紀
市民社会・国家・教育Ⅱ	准教授	仁平典宏
教育社会の計量分析	教授	佐藤 香
社会科学における計量的データの応用分析	非常勤講師	石田 浩
人の国際移動と教育	非常勤講師	児島 明
現代の教育問題 —公教育の役割を考える	非常勤講師	中澤 渉
Educational Change in a Global Era : A Theoretical Roadmap to Current Debates	非常勤講師	Jeremy Rappleye
高等教育の社会学Ⅱ	教授	橋本鉱市
教育と選抜の諸問題	教授	中村高康
質的方法論研究Ⅱ	准教授	額賀美紗子
教育社会学論文指導	教授	本田由紀
教育社会学論文指導	准教授	仁平典宏
計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香
計量教育社会学論文指導	教授	三輪 哲
教育社会学論文指導	客員教授	酒井 朗
高等教育論論文指導	教授	橋本鉱市
比較教育システム論論文指導	教授	中村高康
比較教育学論文指導	教授	恒吉僚子
比較教育学論文指導	准教授	額賀美紗子

生涯学習基盤経営コース

【スタッフの研究分野】

■教授 ^{まきの} 牧野 ^{あつし} 篤 (生涯学習論)

教育や学習の営みを通して人間と社会を考える

人が生活を営み、成長していく過程に現われる様々な事象を通して、社会のあり方を考え、人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えることに関心があります。曖昧な人間と社会を対象とするが故に曖昧な学問である社会教育・生涯学習は、その曖昧さが魅力です。そこから、フィールドは子どもの成長の社会的な意味、少子高齢社会における学び、東アジア地域のコミュニティー教育、そしてまちづくりなど、無限に広がっていきます。

■教授 ^{かげうら} 影浦 ^{きやう} 峡 (図書館情報学)

そもそも言語において考えることは何かを研究しています。その大枠の中で、メディア／言語の分布構造を分析し、近代の図書館が実現しようとしてきた理念とはどのようなものだったのか、それはどのようなメディアと言語の配置を前提としていて、その前提はこれからどのように変わっていくのか、といった問題を考えつつ、メディアや言語の理論からリテラシーの実践・工学的応用まで、いろいろやっています。オンライン翻訳者支援システム「みんなの翻訳」(<http://trans-aid.jp/>)、教育システム「みんなの翻訳実習」(<http://edu.trans-aid.jp/>)も運用・公開しています。

■准教授 ^い 李 ^{じょんよん} 正連 (社会教育学)

社会教育とは何か、という問いにすぐ答えられる人は、研究者の中でもそれほど多くないと思います。社会教育はよく「ごった煮」といわれているように、その対象及び教育（活動）の内容や方法、場所なども非常に多様で、広いです。では、このような「社会教育」という言葉はいつから使われ始めたのか。その用語の起源をはじめ、近代社会教育の成立と展開について研究をしています。そして、最近では韓国の社会教育・生涯学習の政策や教育福祉問題、草の根教育・学習運動などにも視野を広げて検討しています。

■准教授 ^{しんどうひろのぶ} 新藤浩伸 (生涯学習論)

人間の生涯にわたる成長・発達における多様な学びの意味を、表現・文化活動、芸術活動を中心に研究しています。さらにはそのための環境をどう支援し創造していくか、イギリスなどとの比較も視野に入れつつ、日本の公共ホールや博物館などの文化施設、教育・文化政策、文化産業の歴史に即して調査しています。人が暮らしの中で楽しみ、学び、変わり続けることで創造されていく社会や文化の形を、フィールドの中で協働的に、また歴史的にも探求したいと考えています。

【特色】

人が学ぶ営みは、学校教育で完結するものではありません。しかも、今や社会が構造的な変容を来すことで、学校を中心に教育や学びを考えることが困難になっているといっても過言ではありません。社会は、既に「教育」ではなく「学習」をキーワードとし、「学習」によって規定されるものへと変化しているといってもよいでしょう。

このコースでは、学校教育の終了後あるいは学校教育の外で人が営む様々な活動を、「学習」の視点からとらえ、生涯にわたって人が営む学習活動とそれを支える組織・制度・環境・技術などの「基盤」について研究しています。

コースは、主に社会教育や生涯学習の活動を研究対象とし、また学習の視点から社会をとらえる社会教育学・生涯学習論研究室と、図書館などの活動や人々の「知」の創造と利用形態を扱う図書館情報学研究室という、二つの研究室から構成されています。生涯学習センターや公民館での人々の学びだけでなく、NPOやNGO、地域活動、子どもたちの放課後の活動などを含むより広い意味での学習や教育の実践、さらにはサービス活動、図書館や博物館だけではなく、Webやメディアを含む環境としての情報メディア基盤とその構成、それを支える情報検索や言語情報処理などの技術まで、理論的・基礎的な研究から実践的研究までを、二つの研究室が協力しながら進めています。

また、このコースの特色は、研究のための実践フィールドを常に持っていることです。各地の自治体だけでなく、学校や民間団体、そして企業などとも連携しつつ、人が学ぶということの本質を追究しています。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
生涯学習論基本研究Ⅱ	教授	牧野 篤
図書館情報学研究方法論	教授	影浦 峡
図書館情報学総合研究	教授	影浦 峡
生涯学習論特殊研究Ⅲ	准教授	李 正連
生涯学習論特殊研究Ⅳ	准教授	新藤浩伸
持続可能な開発のための教育	非常勤講師	朝岡幸彦
プログラム評価論	非常勤講師	安田節之
情報媒体構造論	教授	影浦 峡
図書館と情報資料	客員教授	海野 敏
デジタルドキュメント論	非常勤講師	阿辺川武
生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤
生涯学習論論文指導	准教授	李 正連
生涯学習論論文指導	准教授	新藤浩伸
図書館情報学論文指導	教授	影浦 峡
図書館情報学論文指導	客員教授	海野 敏

大学経営・政策コース

【スタッフの研究分野】

■教授 おがた なお ゆき 小方直幸 (大学政策論)

ユニバーサル化を迎えた大学は今、様々な課題に直面しています。とりわけ大学教育のあり方は、高等教育政策はもちろん、個別大学の経営上も大きな関心事となり、質の保証や教育改善のシステムを構築するための各種の取り組みが実施されています。高等教育の拡大と長引く景気の低迷が同時進行する中、大学教育は社会や職業とどのような接点を持てばよいのか、その接点を確保するために大学の教育プログラムや教員には何が求められ、それを恒常的に実現していくにはいかなる方策が必要であるのか、理念レベルの議論だけでなく個々の大学で取り組むことが可能な実践レベルの議論も含めた研究を行っています。

■准教授 ひく ども ひでと 福留東土 (比較大学論)

「大学とは何か？」いろいろな定義が可能ですが、私は、大学の最大の存在意義は、個人が自由に思考し、自分の意思で知的な関心と能力を高めることができる点にあると考えます。世の中にこうしたことをできる場所が他にあるのでしょうか？ ないとすれば大学を守り育てていく意義は明らかです。現代は大学にとって危機の時代です。しかし、これまでも大学の自由は無条件に与えられてきたわけではありません。今の状況を歴史的・世界的視野から見つめたいと思います。大学の自由を大切に享受する姿勢からきっと新たな大学論が生まれてくるでしょう。大学に関わり、大学について考えようとする人々と「大学とは何か」を追究したいと思います。

■准教授 もろ すみ あ き こ 両角亜希子 (大学経営論)

知識社会の進展にともなって大学の社会的な役割が大きくなっています。同時に18歳人口が減少する中で、大学の経営は重要な問題として高い関心を集め、大学の経営やそれに関わる政策はどのように変化しなければならないのかが問われています。研究者は、社会科学の視点から一定の枠組みの元で基礎的な研究をつみあげるのももちろんのこと、大学経営の実践者と深く協働し、ともにアイデアを出していくことが求められていると考えています。そこで、とくに大学の意思決定の様式や財務という観点から、事例研究を重ねることにより、実践的な問題に答える論理的な基盤の構築をめざして実証的な研究に取り組んでいます。

【特色】

本コースは、大学経営・政策に関わる先端的かつ実践的な教育と研究を推進しています。大学・高等教育機関の管理者、政策担当者、職員、学卒者を対象に、大学の経営、高等教育政策について理論的・実践的な教育を行い、大学・高等教育研究という新しい分野の研究者、将来のリーダーを育成する大学院です。実務者・社会人の学習環境に配慮し、土曜日を中心に講義・演習を行うカリキュラムになっています。

- 修士課程**：大学経営・政策に関わる基本的な理論を幅広く学ぶとともに、大学の現実の事例を取り上げたケーススタディを実施して実践的能力を身に付けます。これらの内容を元に修士論文に取り組むことで、広い視野と専門的能力および実践的な判断力をもつ幹部職員やスタッフを養成するとともに、この分野の研究者を目指す人に基礎的な教育を行います。
- 博士課程**：修士課程を修了し、幹部職員やシニアスタッフとして経験を持つ方を対象に、大学経営の場で指導的な役割を果たし得る高度な研究力・実践力を養成します。また、この分野の研究者、および大学経営・政策に関わる広い領域でのリーダーとなる人材を養成します。
- 研究活動**：国内外の大学経営や高等教育政策に関する理論的・実証的な研究を蓄積させるとともに、実践との対話に基づいた新しい研究スタイルを確立します。また、国内の大学経営研究者のネットワークをつくり、欧米・アジアにおける同様の教育研究プログラムとの国際的な交流拠点になります。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
高等教育政策論	教授	小方直幸
	非常勤講師	合田哲雄
	非常勤講師	松坂浩史
高等教育論	教授	小方直幸
大学経営論	准教授	両角亜希子
比較大学論	准教授	福留東土
大学経営政策演習(2)	教授	小方直幸
	准教授	両角亜希子
大学経営政策研究	教授	山本 清
	准教授	福留東土
	准教授	両角亜希子
大学経営政策各論(3)	准教授	福留東土
	客員教授	伊地知寛博
	非常勤講師	中田 晃
大学経営政策各論(4)	准教授	両角亜希子
	客員教授	山本 清
高等教育調査の方法と解析(1)	非常勤講師	大多和直樹
高等教育調査の方法と解析(2)	教授	小林雅之
比較大学経営論(2)	准教授	福留東土
大学経営事例研究(2)	准教授	両角亜希子
大学経営政策論文指導	教授	小方直幸
	准教授	福留東土
	准教授	両角亜希子
	客員教授	山本 清
	客員教授	伊地知寛博

教育心理学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 市川伸一 (教授・学習心理学)

学習、理解、推論、動機づけといった問題を軸に、認知理論と教育実践をつなぐことがテーマです。実験や調査による基礎研究とともに、授業改善や社会教育の実践に直接関わりつつ、「教育をつくりながら考える教育心理学」を標榜しています。自らの「学ぶ経験」、「教える経験」を心理学研究として生かしてみたいという学生の方を歓迎します。

■教授 南風原朝和 (教育情報科学)

個についての理解を深める上で、集団データから得られる統計的指標がどのような意味をもつのかといった、心理学研究と統計的方法との関係についての方法的な問題に興味があります。また、テストの統計的分析にも関心を持っており、入学試験のような実際の測定・評価における様々な問題に対して、実践的に迫っていきたくと思っています。

■教授 秋田喜代美 (教授・学習心理学)

学校や幼稚園・保育所という制度的教育の場での、子どもと教師・保育者の学習や発達のプロセスとその発達を支える社会文化的環境や活動について解明しています。談話などの文化的道具に着目し、子どもたちがどのように書き言葉や談話を学び、学習していくのか、また教師は授業をどのようにデザインし実践をし同僚と共に協働省察をしているのかを探究しています。

■教授 岡田 猛 (教育認知科学)

「アイデアが生まれて、それが形になっていく過程」に興味があり、芸術家の創造活動について研究しています。「芸術家はどのように作品を作っていくのか」「独創的なアイデアはどのように生まれるのか」といった問いについて、認知科学的な解明を目指しています。その際、フィールドワークに基づいて「創造の現場で起こっている認知活動」についての仮説を生成し、それを心理学実験で検証するといったマルチメソッドを用いて研究を進めています。

■教授 遠藤利彦 (発達心理学)

人生早期に子どもと養育者との間に形成されるアタッチメントがいかなる要因によって規定され、それはまたその後の子どもの(特に社会情緒的側面の)発達の道筋にどのように影響するのかについて関心を持っています。さらに、人の様々な感情がどのような過程を経て生じてくるのか、そしてそれは子どもの心身の発達全般にいかなる意味を有するのかについても、進化論あるいは文化論の視点を交えながら、考察しています。

■教授 藤村宣之 (教授・学習心理学)

子どもが数学的概念や科学的概念(自然、社会)の理解を深めていくプロセスや学習観の変容過程、それらを他者との関わりの中かで促進する授業のあり方に関心があります。小学生から高校生までを対象に、個別実験・面接、記述形式の調査、授業時の発話や記述内容の分析、小・中・高の教員との実践共同研究などにより研究を進めています。子どもの心理的变化のプロセスに着目することで、教授・学習研究、認知発達研究、授業過程研究といった心理学研究を関連づけることをめざしています。

■教授 針生悦子 (発達心理学)

生まれたときには本当に無力に見えた子どももやがて、ことばを話し、人の気持を思いやった行動がとれ、新しく直面した問題にもうまいやり方で対処できるようになっていきます。この当た

り前に見える変化がどのようにして起こっているかを知りたいと考えています。特に言語の獲得とからめて子どもの世界に対する見方はどのように構造化されていくのかといったことに興味があります。

■准教授 岡田謙介 (教育情報科学)

心理・教育・行動データをモデリングし、現象の理解と予測に役立てることに興味を持っており、そのためにとくにベイズ統計学的方法論と応用を研究しています。心や行動について科学的に理解していくためにも、社会科学的な問題を実証的に解決していくためにも、統計学の理論と方法を役立てることのできるフィールドは私たちの未来に広がっていると思います。

■助教 植阪友理 (教授・学習心理学)

認知心理学を生かした個別学習相談、授業デザイン、テスト開発などを幅広く行っています。特に、学び方(学習方略)の改善もあわせて行う授業実践のあり方を、心理学的研究として検討するのみならず学校現場と協同しながら開発することに力を入れています。

【特色】

専門分野は、教授・学習心理学、発達心理学、教育認知科学、教育情報科学の4領域にわたります。教授・学習心理学では、学校や園における学習を、発達心理学では、感情や認知の発達を、教育認知科学では、学校に限定されない現実場面における学習や認知活動を、教育情報科学では、学習をはじめとした人間のふるまいの測定・解析方法をおつかいます。これら幅広い視野と専門的手法をそなえた研究者の育成をめざしています。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
認知と教育	教授	市川伸一
	助教	植阪友理
感情と進化・文化	教授	遠藤利彦
ことばと認知の発達 I	教授	針生悦子
創造的認知の心理学 I	教授	岡田 猛
心理統計学概論	教授	南風原朝和
心理統計学の諸問題	教授	南風原朝和
ベイズ統計学と認知モデリング I	准教授	岡田謙介
	准教授	岡田謙介
ベイズ統計学と認知モデリング II	准教授	岡田謙介
	准教授	岡田謙介
教授・学習過程	教授	市川伸一
	助教	植阪友理
Communication Strategies for Education Researchers	非常勤講師	Emmanuel Manalo
関係性と子どもの社会情緒的発達	教授	遠藤利彦
ことばと認知の発達 II	教授	針生悦子
創造的認知の心理学 II	教授	岡田 猛
心理統計学の近年の展開	准教授	宇佐美慧
心理統計学演習	准教授	岡田謙介
一般化線形混合モデルとMCMCによるベイズ推定	非常勤講師	清水裕士
教育心理学論文指導	教授	市川伸一
教育心理学論文指導	教授	遠藤利彦
教育心理学論文指導	教授	針生悦子
教育心理学論文指導	准教授	野澤祥子
教育心理学論文指導	教授	岡田 猛
教育心理学論文指導	教授	南風原朝和
教育心理学論文指導	准教授	岡田謙介
教育心理学論文指導	准教授	宇佐美慧

臨床心理学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 ^{しも やま はる ひこ} 下山晴彦 (発達臨床心理学)

特定の心理療法の学派や技法を超えて、総合的に臨床心理学の技能と教育方法を開発することをテーマとし、次の4領域を中心に実践、研究、教育をしています。1) 発達段階に適した援助方法（最近では子どもの認知行動療法）の開発。2) 個人療法とシステム療法を統合する“つなぎモデル”の開発。3) 国際比較に基づき、日本の文化や制度に適した教育や訓練の方法の開発。4) 物語論の観点から臨床心理学の体系化。

■教授 ^{のう ち まさ ひろ} 能智正博 (臨床心理カリキュラム論)

語り（ナラティブ）は個人の「内面」の表現であると同時に、個人の世界を作り上げる実践です。臨床実践とは個人の語りへの再構築を支援することであり、コミュニティの語りに対する働きかけでもあります。私は、障害や慢性疾患をもつ方々などの語りやライフストーリーの特徴とその生成変化、生涯発達のなかでの自己語りの変化や主体価値の発達過程などをテーマに研究を進めています。また、語りを捉える質的研究の方法論・技法論の整理と普及にも努力しています。

■教授 ^{たか ぼし み ほ} 高橋美保 (臨床心理システム論)

個人に起こる心理的問題は、個人的要因のみに起因するのではなく、個人が生きる社会的要因の影響も受けています。また、個人に起こる心理的な問題が社会の問題を浮き彫りにしていることもあります。このような視点から、個人の生きにくさを、コミュニティや社会といった視点から理解し、個人・組織・社会を援助する具体的な方法論と理論を構築するための研究や実践を行っています。特に、就労、復職、失業など働くことにまつわるメンタルヘルスに注目し、現代社会の中で個人が自身のライフキャリアを構築し、生き抜くことを支援するための研究や実践を行っています。

■准教授 ^{たき ざわ りゅう} 滝沢 龍 (臨床心理カリキュラム論)

「ストレスと心身の健康」や「こころの健康科学」の研究と予防教育カリキュラム開発に関心があります。様々なストレス要因や逆境体験に関わらず、心身の健康を保てるようレジリエンスをもたらし認知行動理論と実践法の実証を目指します。社会環境（家庭・学校・職場）における科学的実証のため縦断的コホート、双生児法、脳科学などの手法で迫ります。精神科医としての経験を活かしながら、生涯発達における健康増進・発症予防（＜育み・守る＞）のために、＜見える化＞するテクノロジー（生物学的指標やIoT技術等）も用いて、日常生活場面で利用できる非侵襲的な予防介入法・評価法の開発と効果研究に取り組みます。

【特色】

臨床心理学コースは、「心の時代」とも称される21世紀にふさわしい社会システムを構築するために必要な臨床心理学的な知的基盤を提供し、臨床心理士やスクール・カウンセラー等の高度専門職業人および研究者・指導者の育成を目的とします。

なお、本コースは公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会により第1種指定大学院の認定を受けています。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
臨床心理実習Ⅰ	教授	下山晴彦
	教授	高橋美保
臨床心理実習Ⅱ	教授	下山晴彦
	教授	高橋美保
臨床心理学特論Ⅱ	教授	高橋美保
臨床心理面接特論Ⅱ	教授	能智正博
臨床心理学特論Ⅰ	教授	下山晴彦
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実際）	教授 准教授	下山晴彦 滝沢 龍
臨床心理基礎実習Ⅰ	教授	下山晴彦
	教授	高橋美保
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	教授	高橋美保
臨床心理査定演習Ⅱ	教授 准教授	能智正博 滝沢 龍
臨床心理基礎実習Ⅱ	教授	能智正博
	教授	高橋美保
臨床心理学研究法Ⅰ	教授	能智正博
臨床心理学研究法Ⅱ	准教授	滝沢 龍
心の健康教育に関する理論と実践	客員教授	中嶋義文
メンタルヘルスマネジメント基礎（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	教授 教授	下山晴彦 高橋美保
福祉分野に関する理論と支援の展開	非常勤講師	林潤一郎
心理療法特論： スーパービジョンⅠ	非常勤講師	藤川 麗
心理療法特論： スーパービジョンⅡ	非常勤講師	藤川 麗
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	准教授	滝沢 龍
メンタルヘルスマネジメント応用（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	教授 准教授	下山晴彦 滝沢 龍
障害学演習	教授	福島 智
臨床心理学論文指導	教授	高橋美保
臨床心理学論文指導	客員教授	中嶋義文
臨床心理学論文指導	教授	能智正博
臨床心理学論文指導	客員教授	黒田美保
臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍
臨床心理学論文指導	教授	下山晴彦
	准教授	星加良司
臨床心理学論文指導	教授	福島 智

身体教育学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 ^{やまもと よしはる} 山本義春 (教育生理学)

生体情報や健康関連情報のデータ分析が専門です。研究面では、教育や医療のフィールドを念頭に、データを如何に取得するか、どのように分析するか、結果を如何に解釈するか、健康リスクの評価や予防介入にどのように活かすか、といった問題について、生理測定、信号処理、モデリング、統計解析などの立場から考究しています。扱うデータは、標準的な生理測定データに加え、行動・社会医学的情報まで多岐にわたります。教育面でも、多様な興味関心を持つ学生や研究者に、情報化社会に相応しい専門的かつ総合的な「分析力」を身につけてもらうことを目指しています。

■教授 ^{ささき つかさ} 佐々木 司 (健康教育学)

人間の「こころと体」の成長・発達に影響する遺伝的・環境的諸要因について、精神科医としての経験も活かして研究活動を進めたいと考えています。ちなみに、人の成長・発達には心理社会的要因とともに生物学的要因の役割も非常に大きいのですが、これを総合的に理解して社会で活躍できる人材を育成していきたいと思えます。研究の具体的課題としては、24時間社会化に伴う睡眠・覚醒リズムの変化とその成長・発達・健康維持への影響、胎生期の環境やゲノムのvariationが成長・発達に及ぼす影響等を当面扱っていききたいと思えます。また、高等教育の現場をとりまく様々な問題が学生・教職員の心身の健康にどのような影響を与えているかについても研究を進める予定です。

■教授 ^{たがけんたろう} 多賀殿太郎 (発達脳科学)

ヒトの運動、知覚、認知が、脳と身体と環境との動的相互作用を通じて生成される原理を探っています。特に、新生児や乳児の発達過程に焦点を当て、生得性、複雑なシステムの発展法則、環境への適応性、自発的な情報生成機構などを明らかにしたいと考えています。行動計測、心理実験、脳のイメージング、非線形動力学モデリングと計算機シミュレーションなどを行っています。

■教授 ^{のざき たいち} 野崎大地 (身体教育学)

我々の身体運動をささえる神経系・筋骨格系は極めて冗長な特徴を有しています。例えば単一の関節を曲げ伸ばしする運動にさえ、膨大な数の脳、脊髄の神経細胞、複数の筋が関与しているのです。動作分析、(誘発)筋電図、脳波、脳磁気刺激、fMRI、ロボットアームをもちいた運動学習パラダイムなどの手法を用いて、このような冗長性のもと、ヒトの精緻な運動がどのように実現され、また獲得されていくのかを明らかにしたいと考えています。

■准教授 ^{とうごう ひろはる} 東郷史治 (教育生理学)

我々の生活習慣は身体そしてこころの健康と密接に関連します。さまざまな環境のなかで多様化しつつある心身の健康問題の背景を明らかにし、その対応策を検討するために、身体活動、睡眠、休息と疲労、概日リズム、栄養といった日常生活を構成する基盤となる事象に関する研究を実施しています。とくに、生理学、生体情報学などの手法を用いて、実験およびフィールド調査を実施し、幅広い年代でのその実態を明らかにしたいと考えています。

■准教授 ^{もり たけんじ} 森田賢治 (身体教育学)

スポーツや楽器演奏の習得において、成功や失敗の経験からいかに学ぶか、またその過程で自らをいかに動機付けるかは重要な問題です。また、スリルを楽しいと思うか怖いと思うか、あるいは動作を面倒に感じるか心地良さを覚えるかなどは、経験、心身の状態、そして人によっても異なります。これらの根幹にあると考えられる脳と身体における学習と情動のメカニズムを、生物学的知見に基づく数理モデリングと、行動・生理・脳機能イメージング実験等を用いて、明らかにしていきたいと考えています。

■助教 ^{きし あきひろみ} 岸 哲史 (教育生理学)

ヒトの心身の健康や豊かで活力ある生活形成の基盤を成す睡眠を主要な研究対象とし、その仕組みや機能に関する研究を進めています。特に、ヒトの睡眠の動的制御機構を明らかにするために、生理計測や数理解析等に基づく基礎的研究から睡眠の病態生理学的研究まで、幅広く研究に取り組んでいます。より広くは、ヒトの生理学、特に生体の恒常性維持に関わる生理学的システムの動的制御と相互作用の仕組みに興味を持っています。

【特色】

学校、家庭、社会に存在する「身体(からだ)と心」に関わる様々な教育事象について、幅広く基礎的・総合的・実践的な立場で教育・研究を行うのが身体教育学です。そして、身体教育学は、健全な身体形成を図り、健全な身体観とスポーツ観を育み、自分自身の「身体(からだ)と心を育む」ことに主体的に立ち向かい実践していく意識と行動力を育成することを目標としています。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
身体教育学の諸問題Ⅰ	教授	野崎大地
身体システム論Ⅰ	教授 准教授	山本義春 森田賢治
発達脳科学特論Ⅰ	教授	多賀殿太郎
健康教育学の諸問題Ⅰ	教授 准教授	佐々木司 東郷史治
身体教育学の諸問題Ⅱ	教授	野崎大地
身体システム論Ⅱ	教授 准教授	山本義春 森田賢治
発達脳科学特論Ⅱ	教授	多賀殿太郎
健康教育学の諸問題Ⅱ	教授 准教授	佐々木司 東郷史治
精神医学研究概論	客員教授	栃木 衛
身体教育学論文指導	教授	野崎大地
身体教育学論文指導	准教授	森田賢治
教育生理学論文指導	教授	山本義春
教育生理学論文指導	准教授	東郷史治
発達脳科学論文指導	教授	多賀殿太郎
健康教育学論文指導	教授	佐々木司
健康教育学論文指導	客員教授	栃木 衛

教職開発コース

【スタッフの研究分野】

■教授 あき た き よ み 秋田喜代美 (授業研究)

学校や幼稚園・保育所という制度的教育の場での、子どもと教師・保育者の学習や発達のプロセスとその発達を支える社会文化的環境や活動について解明しています。談話などの文化的道具に着目し、子どもたちがどのように書き言葉や談話を学び、学習していくのか、また教師は授業をどのようにデザインし実践をし省察をしているのかを探究しています。

■教授 ふじ え や す ひ こ 藤江康彦 (授業研究)

学校における子どもや教師の学習と発達およびそれを支える環境のあり方について、教育方法学、教育心理学、学習科学などの研究知見に学び、学校でのフィールドワークやコンサルテーションを行いながら追究しています。授業における談話空間の社会文化的構成と子どもの学習との関係、校種をつなぐカリキュラムのあり方、そのカリキュラムのもとでの子どもや教師の学校参加や活動、組織のあり方、などに関心があります。現在は、小中一貫校の学校づくりや校内研究体制づくりのフィールドワークをおこなっています。

■准教授 あさ い さち こ 浅井幸子 (カリキュラム研究)

教育実践の研究を専門としています。明治以降の小学校教育や幼稚園・保育所の保育について、教室における教師と子どもの関係や経験がどのように語られ構成され意味づけられたかということ、教師の語りやカリキュラムの編成に即して検討しています。学校改革における教師の経験にも関心があり、継続的に、小学校の先生にインタビューを行っています。

【特色】

学校教育の高度化を達成する核ともいえる、授業の開発、カリキュラムの開発および教職専門性の開発の先端的研究と実践的研究を推進し、質の高い学習環境の創出と教職の専門的資質や能力の高度化をめざします。授業研究、カリキュラム研究、教師研究の発展を推進することをおして、教師と協働して学校教育の改革を遂行するとともに大学などの高等教育機関において教師教育（現職教育を含む）を担う実践的研究者、幼児教育も含めた初等教育、中等教育段階の指導的教師を養成します。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
授業における学習研究	教授	秋田喜代美
授業研究の理論と方法	准教授	藤江康彦
カリキュラムの理論的・実践的諸相	客員教授	澤田 稔
教育実践の歴史的研究	准教授	浅井幸子
保育学研究	教授	秋田喜代美
学校教育研究と談話分析	教授	藤江康彦
教職経験の研究	准教授	浅井幸子
学校の社会学	非常勤講師	志水宏吉
人間理解と授業研究	非常勤講師	田上 哲
保育の諸問題	非常勤講師	福元真由美
民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から	非常勤講師	近藤孝弘
吟味・評価・批評の力を育てる国語の授業づくり	非常勤講師	阿部 昇
教育経営における組織と人事	非常勤講師	川上泰彦
教育政策研究における計量的手法	非常勤講師	橋野晶寛
教職の事例研究	准教授	浅井幸子
授業の事例研究	教授	秋田喜代美
言語教育の事例研究	教授	斎藤兆史
人文社会教育の事例研究	准教授	北村友人
授業の現地研究	教授	藤江康彦
教科学習の現地研究	教授	藤村宣之
授業研究論文指導	教授	秋田喜代美
カリキュラム研究論文指導	教授	藤江康彦
カリキュラム研究論文指導	准教授	浅井幸子
カリキュラム研究論文指導	客員教授	澤田 稔

教育内容開発コース

【スタッフの研究分野】

■教授 齋藤兆史 (言語教育)

日本の英語受容・学習・教育史関連資料の検証や、高度な英語力を身につけた日本人に関するケース・スタディを通じ、日本人にふさわしい英語学習・教育のあり方を研究しています。また最近では、英語教師がクラスの特性に応じて臨機応変に教授法を工夫すること、また授業において学習者に英語使用の手本を示すことが重要であるとの認識に基づき、教師教育の方法論も研究しています。

■教授 藤村宣之 (数学・科学教育)

子どもが数学的概念や科学的概念（自然、社会）の理解を深めていくプロセスや学習観の変容過程、それらを他者との関わりのなかで促進する授業のあり方に関心があります。小学生から高校生までを対象に、個別実験・面接、記述形式の調査、授業時の発話や記述内容の分析、小・中・高の教員との実践共同研究などにより研究を進めています。子どもの心理的变化のプロセスに着目することで、教授・学習研究、認知発達研究、授業過程研究といった心理学研究を関連づけることをめざしています。

■准教授 北村友人 (人文社会教育)

グローバル化時代における教育のあり方について、政治・経済・社会などとの関わりのなかから理論的および実証的に明らかにすることを目指しています。そのために、アジアの途上国を主なフィールドとした学校教育の充実に関する研究、「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する研究、高等教育の国際化と国際協力に関する研究などに取り組んでいます。これらの研究を通して、教育の公共性とは何であるのかという問題について、深く考えていきたいと思っています。

【特色】

学校教育の高度化を実現する教育内容の理論研究と開発研究を推進し、教育内容における高度の専門的知識と教職の専門的見識を兼ね備えた小学校・中学校・高校段階の指導的教師、および教科教育の実践的・基礎的研究や教師教育（現職教育を含む）などに関わる実践的研究者を養成します。本コースの特色は、数学・科学教育、言語教育、人文社会教育ならびに芸術教育と身体教育の諸分野の学術研究と教育の実践的研究を統合するところにあります。

【2018(平成30)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
英語教授法	教授	齋藤兆史
Globalization and Education	准教授	北村友人
数学的・科学的思考の発達と学習過程	教授	藤村宣之
吟味・評価・批評の力を育てる国語の授業づくり	非常勤講師	阿部 昇
カリキュラムの理論的・実践的諸相	客員教授	澤田 稔
民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から	非常勤講師	近藤孝弘
学校の社会学	非常勤講師	志水宏吉
人間理解と授業研究	非常勤講師	田上 哲
保育の諸問題	非常勤講師	福元真由美
教育経営における組織と人事	非常勤講師	川上泰彦
教育政策研究における計量的手法	非常勤講師	橋野晶寛
言語教育の事例研究	教授	齋藤兆史
人文社会教育の事例研究	准教授	北村友人
教職の事例研究	准教授	浅井幸子
授業の事例研究	教授	秋田喜代美
教科学習の实地研究	教授	藤村宣之
授業の实地研究	教授	藤江康彦
外国語教育論文指導	教授	齋藤兆史
人文社会教育論文指導	准教授	北村友人
芸術教育論文指導	客員教授	今井康雄
教育内容開発論文指導	教授	藤村宣之

学校開発政策コース

【スタッフの研究分野】

■教授 かつの まさあき 勝野正章 (学校教育経営)

分権改革と市場原理の導入が進行するなかで、従来の学校管理・運営とは異なる学校経営（ガバナンス）の諸様式が現れはじめています。学校経営研究の課題はまず、国や自治体の政策や制度に強く規定されつつもローカルな関係のなかで生成している、このような学校経営の実態と様式を分析し説明することです。そのうえでさらに学校が教育機関であることに由来する固有の経営論理を改めて析出していき、学校経営過程の組み換えを志向する教職員をはじめとする学校当事者とともに実践的・開発的・共同的研究を進めていくことを目指しています。さしあたって現在、次のような研究テーマに取り組んでいます。

- ・民主主義と協働の原理に基づく学校づくり
- ・学校における成果主義の受容と変容
- ・教職員の同僚性と教育専門職としての成長

■准教授 むら かみ ゆう すけ 村上祐介 (教育政策研究)

現代民主政治における教育政策・行政は高度な専門性が求められる一方で、政治家や市民による民主的統制も必要とされています。しかし、この二つの要素は両立しがたい側面があり、どのように両者の調和を図るかが問われています。こうした観点から、戦後日本の教育行政の特質を検討すると同時に、民主的統制と専門性の在り方が教育政策に与える影響を分析しています。

理論・方法論的側面に関しては教育学・教育行政学のみならず、政治学・行政学などの社会科学諸領域から積極的に学ぶことを重視しています。教育と他の政策領域との比較の視点を交えながら、教育政策領域の特徴と独自性を明らかにしたいと考えています。

【特色】

学校教育の高度化を推進する教育政策、教育行政・財政システム、学校経営の政策的、制度的な研究開発を行うとともに、この領域の政策立案、行財政システム改革・経営・管理、政策評価等を遂行することのできる研究者と指導的な行政官（教育行政職員、学校管理職・指導主事、等）を養成します。2006（平成18）年度から従来の教育行政学研究室を改組再編し新専攻の下に新たなコースとして設置されました。研究の学際的性格もあり学内外の他研究分野・研究科との連携・協力も得て運営されています。

【2018（平成30）年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
教育政策基礎論	非常勤講師	本多正人
教育法の現代的課題	非常勤講師	斎藤一久
現代学校改革の諸問題	教授	勝野正章
教育政策研究方法論	准教授	村上祐介
教育政策研究における計量的手法	非常勤講師	橋野晶寛
教育経営における組織と人事	非常勤講師	川上泰彦
カリキュラムの理論的・実践的諸相	客員教授	澤田 稔
学校の社会学	非常勤講師	志水宏吉
人間理解と授業研究	非常勤講師	田上 哲
保育の諸問題	非常勤講師	福元真由美
民主主義国家と歴史・政治教育－オーストリアとドイツの事例から	非常勤講師	近藤孝弘
吟味・評価・批評の力を育てる国語の授業づくり	非常勤講師	阿部 昇
教育行政事例研究Ⅰ	准教授	村上祐介
教育行政実地研究	准教授	村上祐介
学校経営実践の開発Ⅱ	教授	勝野正章
学校経営実地研究	教授	勝野正章
学校経営研究論文指導	教授	勝野正章
教育行政研究論文指導	准教授	村上祐介

学校教育高度化・効果検証センター

センター長・教授(併) なかむらたかやす **中村高康** (比較教育社会学コース)

【特色】

学校教育高度化・効果検証センターは、2017(平成29)年度にこれまでの学校教育高度化センター(2006(平成18)年度創設)を改組して設置されました。当センターは、次の2つのユニットを核として、学校教育のさらなる発展を促進するための研究や実践活動を行っています。

「グローバルユニット」は、教育の国際化に関連した研究の推進、センターおよび若手研究者の国際発信力の向上等活動を行うユニットです。具体的には、教育学研究科の協定大学と連携した若手研究者の海外研修、国際シンポジウムの開催、海外からの研究者や日本への教育視察団の受け入れと研修等を実施しています。

「効果検証ユニット」は、附属中等教育学校(附属学校)との密接な連携のもと、中等教育の効果を検証することを通じ、実証的根拠に基づく研究教育の基盤を構築することを目的としています。具体的には、ディープ・アクティブラーニングをはじめとする教育システムの実証的な開発や政策立案を目指し、附属学校の在校生・卒業生のパネル調査を継続的に実施するとともに、附属学校で展開される様々な学校教育高度化の試みの効果検証に資する研究プラットフォームの構築・運営を行っています。

バリアフリー教育開発研究センター

センター長・教授(併) こくによしひろ **小国喜弘** (基礎教育学コース)

【特色】

バリアフリー教育開発研究センターは、2009(平成21)年4月1日に発足し、2010(平成22)年4月1日に、本研究科附属施設として全学的機構図の中に正式に位置づけられました。

「バリアフリー」とは、障がい者や高齢者にとっての「物理的バリア」の解決法を指すのみでなく、各種疾病、身体的特徴、出自、地域、言語、人種、民族、宗教、文化、国籍等を要素として生み出されるさまざまな「心のバリア」や「文化的社会的バリア」を解明してこれに積極的に取り組み、人間の多様性に対して寛容な、だれにとっても住みやすい社会のあり方を探求するものであり、各種の障壁を内包している社会の現状や人々の考え方の変革を目指すものです。

バリアフリー教育開発研究センターは、教育をバリアフリーの観点から見直すと共に、バリアフリーを教育研究の領域において推進しています。

発達保育実践政策学センター

センター長・教授(併) あきたきよみ **秋田喜代美** (教職開発コース)

【特色】

発達保育実践政策学センターは、乳幼児の発達や保育・幼児教育の実践、そのための政策に係る研究を推進する「発達保育実践政策学」という新たな統合学術分野の確立を目指して2015(平成27)年7月1日に設立されました。①子育て・保育、②発達基礎、③政策、④人材育成の4つの部門があります。子どもや子育てに関わる課題は多岐にわたっているため、東京大学内の研究者はもとより、国内外の研究者や研究機関、子育てや保育・教育を実践している方々やその団体、実践のための制度に関わる国や自治体、子育て・保育に関心のある企業等と連携し、解決の道筋を

協創探求し、その成果をシンポジウムや書籍、報告書等の形で国内外に発信しています。

1年目の2015(平成27)年度は全国の保育・幼児教育施設を対象とした大規模質問紙調査、全国1700余りの基礎自治体を対象とした質問紙調査を実施しました。2年目の2016(平成28)年度には、育児中の母親を対象とした子育てと子どもの発達に関する大規模ウェブ調査、小児病棟で働く病棟保育士をめぐる実態調査、全国1740園への園庭に関する調査、「幼児教育の推進体制構築事業」実施に係る調査分析事業(文部科学省委託調査)等を行いました。これ以外にも、「発達保育実践政策学」の志向性に合致する萌芽的研究を、教育学研究科を核として、院生や若手研究者も参与しながら展開していく「関連SEED研究プロジェクト」を継続して実施しています。

教育学部附属中等教育学校

附属中等教育学校は中野キャンパスにあり、創立以来、中高一貫教育を行う中で、教育研究と教育実践の連携の場として、教育学研究科・教育学部教員と附属学校教員の共同研究の拠点として、重要な役割を担ってきました。

2016(平成28)年度から4年間『総合的な学習』と教科学習を、「市民性」「探究」「協働」の視点で見直し結びつけ、そこの「ディープ・アクティブ・ラーニング」を可能にするカリキュラムの開発と、その指導・評価方法の研究』を研究開発課題として、研究開発に取り組み始めました。この他にも、多様な文部科学省からの委託研究を行ってきており、中等教育の発展に寄与できる学校づくりを目指しています。

教育学研究科・教育学部との連携として、「協働的な学びを通じて深く学ぶ」いわゆる「アクティブ・ラーニング」の実践と研究のために、年間を通して研究授業・授業検討会に教育学研究科・教育学部の多くの教員が参加し、その知見と議論から多くを学びながら、附属教員は授業改善に恒常的に取り組んでいます。また2月に行われる公開研究会でも、ほぼ全ての分科会に教育学研究科・教育学部の教員がコメンテーターとして参加しています。

さらに全学の教員養成とその高度化の拠点として、教育実習オリエンテーション、教育実習、実地研究等での授業参観、教科教育授業の担当、教職実践演習授業の担当など、年間を通して、教育学研究科・教育学部と連携しながらその実施と改善に取り組んでいます。

心理教育相談室

心理的な問題への援助に携わろうとする大学院学生の実践的な研修の場として設置された、本研究科附属の相談機関です。1957(昭和32)年に開設され、1983(昭和58)年に旧文部省に公的な相談・研修機関として認可されました。臨床心理学コースの教員による幅広い指導が行われています。

この施設は、教育相談機関や精神保健相談機関、病院などで専門職として援助実践に携わる臨床心理士を目指す院生や、臨床心理学的な実践的研究者を目指す院生に開かれています。具体的には、発達障害、不登校、非行、対人関係などの心理的な問題などをかかえた子どもや成人を対象に、カウンセリング、プレイセラピー、保護者面接、コンサルテーションなどの相談活動を行っています。

臨床心理学の専門教育訓練を受けている教育学研究科の大学院生が相談員となります。相談員は、スーパーバイザーの指導を受けながら、実際の相談に当たっていきます。それ以外に、毎週、事例検討会が開かれます。

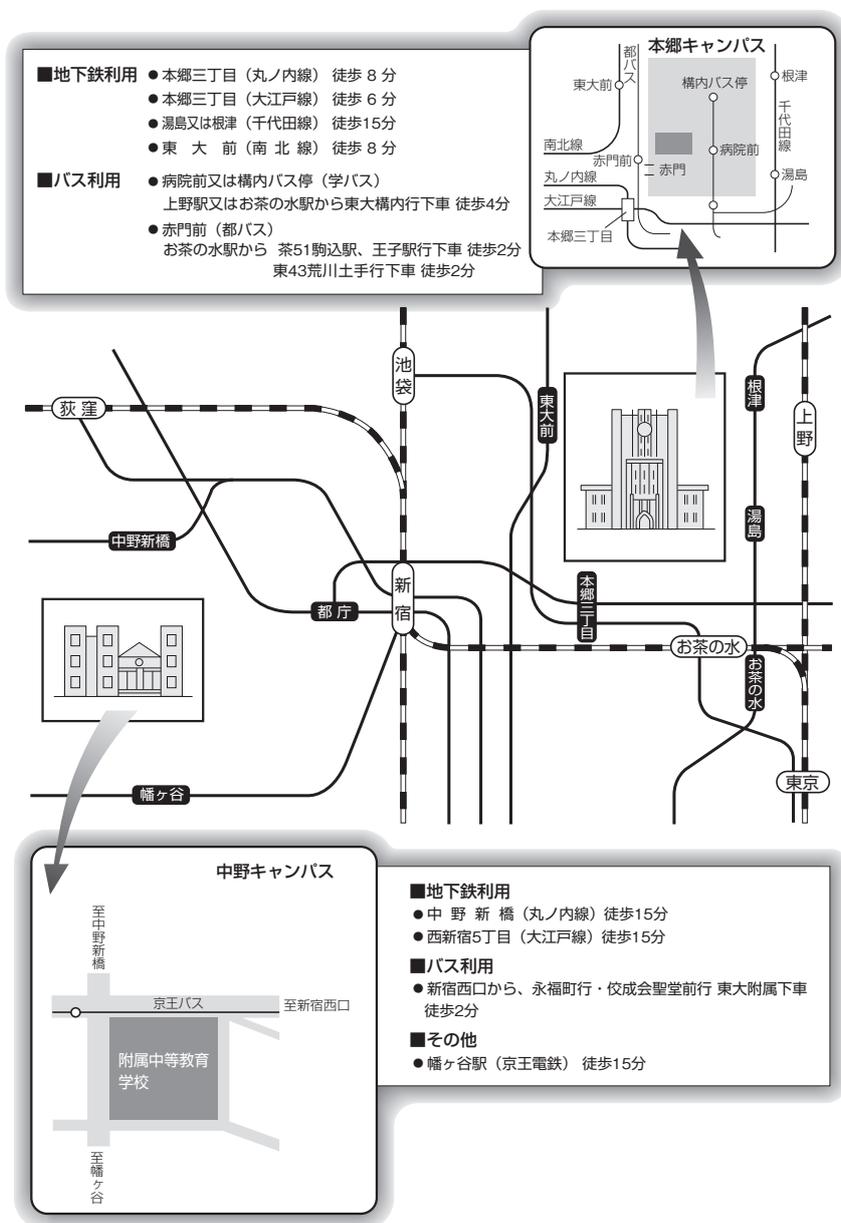
相談員の中には、修士課程修了後、相談機関などに心理職として就職する人もいますし、博士課程に進学し、外部の相談機関や病院、学校などで実践経験を積んで援助専門職としての技量を深めつつ、実践的な研究を進めている人も大勢います。

教育学研究科の連絡先一覧

教育学研究科についてさらに詳しく知りたい方は、下記まで問い合わせください。

学生支援チーム（大学院担当）	03（5841）3908
基礎教育学コース事務室	edu264@p.u-tokyo.ac.jp
比較教育社会学コース事務室	hikyosha@p.u-tokyo.ac.jp
生涯学習基盤経営コース事務室	03（5841）3976
大学経営・政策コース事務室	daikei@p.u-tokyo.ac.jp
教育心理学コース事務室	03（5841）3951
臨床心理学コース事務室	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/gs/c6/ 参照
身体教育学コース事務室	03（5841）3986
学校教育高度化専攻事務室	kodoka@p.u-tokyo.ac.jp
ホームページ	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

本局、附属中等教育学校への経路



東京大学大学院教育学研究科

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号

電話：03-5841-3908